

チャイコフスキー：

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35 (約35分) ★

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Violin Concerto in D major, op.35

〔第1楽章〕 アレグロ・モデラート
Allegro moderato

〔第2楽章〕 カンツォネッタ：アンダンテ
Canzonetta : Andante

〔第3楽章〕 フィナーレ：アレグロ・ヴィヴァチッシモ
Finale : Allegro vivacissimo

チャイコフスキー：

交響曲 第4番 ヘ短調 op.36 (約45分)

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Symphony No.4 in F minor, op.36

〔第1楽章〕 アンダンテ・ソステヌート - モデラート・コン・アニマ
Andante sostenuto - Moderato con anima

〔第2楽章〕 アンダンティーノ・イン・モード・ディ・カンツォーナ
Andantino in modo di canzona

〔第3楽章〕 スケルツォ：ピッツィカート・オスティナート：アレグロ
Scherzo : Pizzicato ostinato : Allegro

〔第4楽章〕 フィナーレ：アレグロ・コン・フオーコ
Finale : Allegro con fuoco

〔指揮〕 大井 剛史 *Takeshi Ooi, Conductor*

〔ヴァイオリン〕 木嶋 真優 *Mayu Kishima, Violin* (★ 演奏曲)

〔管弦楽〕 兵庫芸術文化センター管弦楽団 *Hyogo Performing Arts Center Orchestra*

※演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。
※本公演に休憩はございません。

小味 潤 彦之
(音楽学、音楽評論)

チャイコフスキーと聞いて、みなさまはどんな響きを思い浮かべられるのでしょうか。息の長い美しいメロディー、それとも熱い鼓動のような激しいリズム、もしくはノスタルジックな甘いフレーズ、勇壮な音のうねり、そのどれもが彼の音楽には当てはまります。

本日の兵庫芸術文化センター管弦楽団 特別演奏会は、そうした魅力をたっぷりと味わうことができるチャイコフスキーの名曲を2つご用意しました。指揮はPACに2度目の登場となる大井剛史、ヴァイオリンのソリストには木嶋真優を迎えます。木嶋は、近年ファッション誌やテレビのバラエティ番組に登場して広く知られる存在になりましたが、地元、兵庫県出身の彼女が奏でるヴァイオリンの大道を行くような真っ向勝負の演奏が楽しみです。

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35 *Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Violin Concerto in D major, op.35*

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-1893)は19世紀後半のロシアで活躍した作曲家です。同時代のロシアでチャイコフスキーの音楽は、西歐的で洗練されたものとされていました。これはボロディンやムソルグスキー、リムスキー=コルサコフといった同じ時代に活躍したロシアの作曲家と比較すると、チャイコフスキーの音楽はスタイリッシュなものだったということなのです。

《ヴァイオリン協奏曲》は1878年(38歳)にオペラ「エフゲニー・オネーギン」を書き上げた直後、静養したスイスのクラランで作曲されました。

かつての弟子でヴァイオリン奏者のイオシク・コチュークとラロの《スペイン交響曲》を演奏したことで、創作意欲が触発されたと言われています。3月17日に書き始め、4月10日には書き上げていて、1ヶ月もかからずに完成されたこととなります。ただし、ここからがチャイコフスキーにとっても、作品にとっても、試練の時でした。コチュークには初演を辞退され、代わりを頼んだ名手レオポルド・アウアーには技術的に演奏不可能と言いつたれてしまいます。1881年12月ようやくウィーンで初演の運びとなりました。友人であるアドルフ・ブロッキーの独奏、ハンス・リヒターの指揮でウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏です。しかし、批評家の権威エドゥアルト・ハンスリックには「手当たり次第に悪趣味なものを創る才能」と書かれ、他の評者にも「悪臭を放つ音楽作品」などと散々な言われようでした。聴衆の反応も騒然たるもの。ところが、その後ブロッキーの懸命な努力で再演を重ねるうちに次第に作品の評価は上がります。初演を断られたアウアーまでが積極的に取り上げるようになったとは、失礼な話ですが、ともあれこの作品は「ヴァイオリン協奏曲」の代表格になりました。「演奏不能」とまで言われた作品でしたが、難度は高くても、実は奏法的に無理のないように書かれていて、ヴァイオリニストにとってかゆいところまで手の届いた音楽なのだそうです。なお第1楽章にあるカデンツァはチャイコフスキー自身が書いています。

3つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉は冒頭から土の薫りが浮かび、スラブ的な歌心にあふれます。〈第2楽章〉では独奏ヴァイオリンが徹頭徹尾ロマンティックに歌い込む中に、響きの色合いが次々と移ろいます。切れ目なく続けられる〈第3楽章〉は舞曲的な要素が強く盛り込まれました。緩急豊かに綴られる中にスリリングなフィナーレが構築されます。

楽器編成

独奏ヴァイオリン、フルート2、オーボエ2、クラリネット2
バスーン2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

チャイコフスキー：交響曲 第4番 へ短調 op.36

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Symphony No.4 in F minor, op.36

この作品が生まれたのは《ヴァイオリン協奏曲》が書かれる少し前のこと。前項でも触れた「エフゲニー・オネーギン」とほぼ同時進行で取り組まれました。《交響曲第4番》は1877年(37歳)の初めに着手されたのですが、この年はチャイコフスキーにとって結果的に散々な出来事ばかりとなりました。夏にアントニーナ・ミリューコヴァという女性に惚れ込まれて結婚をしましたが、同性愛者だったチャイコフスキーが世間体を気にして偽装結婚を画策したというのが定説になっています。一緒に暮らしたのは1ヶ月と数日で、チャイコフスキーはアパートを出てモスクワからペテルブルクへ向かいます。挙式から83日後には、人を介して離婚を申し出ました。なお二人はこれ以降、一緒に暮らすことはありませんでしたが、離婚は最後まで成立しないままでした。妻から逃げた彼は作曲に没頭し、書き上げたのが《交響曲第4番》とオペラ「エフゲニー・オネーギン」だったのです。《交響曲第4番》は1878年2月10日にモスクワで開かれたロシア音楽協会の演奏会で、ニコライ・ルビンシテインの指揮で初演されました。

少し前の1876年に、編曲の依頼をきっかけに文通相手と資金提供のパトロンになったナジェージダ・フォン・メック夫人との交流が始まります。彼女は裕福な男爵未亡人で、アントニーナ同様にチャイコフスキーの大ファンでしたが、しかし、いくら親密になっても二人は決して実際に会うことはなく、手紙のやり取りと金銭の受け取りだけという秘めた関係を続けたのです。

4つの楽章で構成されます。チャイコフスキーはメック夫人に、この曲に込めたプログラム(標題)を知らせました。冒頭に登場する強烈なファンファーレが「運命の動機」で、「われわれの幸福への追求を実現させないあの不吉な力」とされます。ただし、チャイコフスキーはこうした作品の持つ標題性を公には明らかにしませんでした。こうして「運命の動機」で始まる〈第1楽章〉には、出口の見えない不安が拠り所のないリズムに重なります。〈第2楽章〉では憂鬱な

テーマが木管楽器で語り継がれ、楽器ごとの表情が鮮やかに描き分けられました。〈第3楽章〉はピッツィカート(弦を指ではじく)奏法が効果的な弦楽器、豊かな節回しの木管楽器、短く音を切った金管楽器というように、それぞれの楽器の役割が明確に意図されて、そこにユーモラスな雰囲気も浮かび上がります。対照的に、爆発するように始まる〈第4楽章〉では、四方八方から響きが飛び交う中に、ロシア民謡〈野に立つ白樺〉のメロディも絡められました(ソーレーファファミレー、ドーレーファラシトドー)。そこに立ちそびえるのが「運命の動機」。最後には熱狂し、疾走するコーダ(終結部)が待ち構えています。果たして運命を乗り越えることはできたのでしょうか。

楽器編成

フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2
バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2
バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、大太鼓
シンバル、トライアングル、弦楽5部

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。
※音や警報音の鳴る機器(補聴器、アラーム付時計等)をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意ください。
※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。
※演奏中の会話、客席内での飲食はご遠慮ください。

新型コロナウイルス感染防止に関するお願いとお知らせ

●必ず指定されたお席でご鑑賞ください。●ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。●ブラボーなどの声援や、大きな声での会話はお控えください。●開演中に退出されますと、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。●終演時は、分散してのご退場にご協力ください。●客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。

当センターウェブサイトより、アンケートへのご協力をお願いします。

右記QRコードを読み取って公演カレンダーへアクセスしてください。
(公演翌日から11月17日まで)



「兵庫県コロナ追跡システム」をぜひご利用ください。館内掲示のポスターよりQRコードを読み取ってご登録ください。